

造林の様子

【新植・改植】

紀中流域では、主に杉や桧を植栽します。弊社では通常、安価な普通苗を利用し千鳥植えの方法で1haに2500本～4000本を植栽します。

植栽する苗木は、育った環境により活着率に影響を及ぼすと考え「地産地消」しています。また皆伐直後の植栽は、架線にて苗木を運搬するなどコスト削減に努めています。



【下刈り】

刈り残しを防止するため山林の下方から刈り始めます。また、最も重作業と呼ばれる下刈りは、暑い日が続くと熱中症の危険性があるので、早朝より作業を開始したり、こまめに休憩したりと労働負荷の軽減に努めています。



【間伐や除伐】

熟練の職人が立木の密度や気象条件等を考慮しながら、山林の状態にあわせて間伐率を決定し、将来木を意識しながら劣勢木や枯木を中心に間伐します。この作業は「森林を造る」基本の作業と言っても過言ではありません。木の状態を見極め1本ずつ木と対峙しながら伐採していきます。

【獣害防止ネット】

通常、支柱高1.8m支柱間距離2.5m程度の規格で設置していますが、弊社では急傾斜山林でありシカ等が乗り越える危険性のある箇所の支柱高を1区間のみ2.0mにするなど、現場の状況に合わせ仕様を変更しています。また小規模皆伐地などの場合、費用対効果を考慮しヘキサチューブ等の単木保護柵を設置する場合もあります。

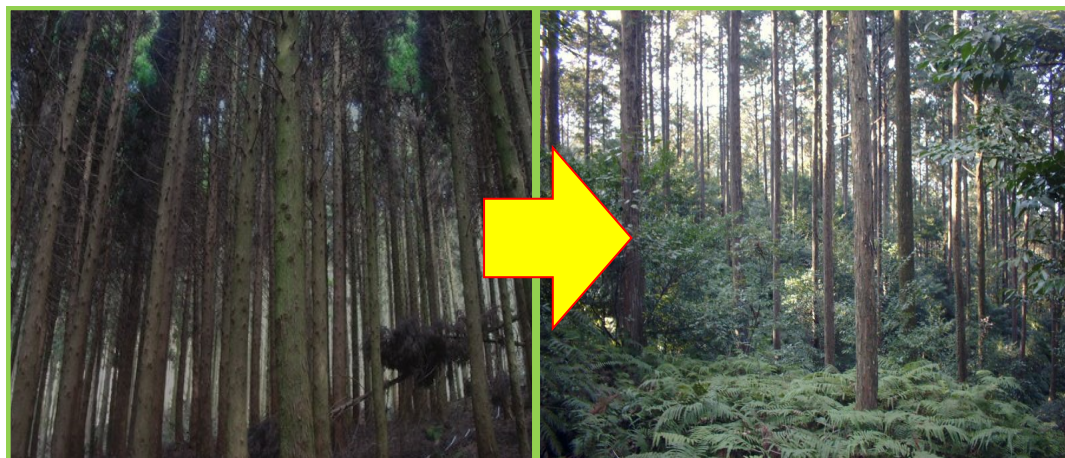


【搬出間伐・更新伐】

木材生産を目的とした人工林では、素材生産も重要な造林の一部と捉え、搬出間伐や皆伐(更新伐)に於いて、事業コストの削減に努めています。

※詳しくは「伝統と革新の素材生産」へ

「森林を造る」それが私たちの仕事です。



全国に約1000万ha在ると言われている人工林、そのほとんどが木材生産を目的に造成された針葉樹林であるにも関わらず、長期間続く木材価格の下落が要因で森林の整備が遅れつつあります。また人工林は本来、適切な整備と更新を繰り返すことで、水源涵養や地球環境保全などの機能を発揮してきました。このことから、人工林(木材生産林)が本来の姿を取り戻す為に、植栽から更新までのコスト削減や一貫した整備計画をご提案することにより、わたしたちは森林の本来持つ機能の回帰に努めます。